

レクリエーション指導者資格の未更新者が多い現象について ～有識者へのインタビュー調査結果から～

○ 三橋正幸（東海大学大学院） 西野 仁（東海大学）

I. はじめに

スポーツ・レクリエーションに関係する民間の公益団体では、指導者の資質向上を図ることを目的に、指導者資格制度を導入しているところが多い。

財団法人日本レクリエーション協会（以下、(財)日本レク協会）が認定する「レクリエーション・インストラクター」資格の2008（平成20）年度の更新率は40.9%（更新対象者29,536名に対し12,099名が更新）であったと報告¹⁾されている。同じような更新率は、財団法人健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」資格の更新率33.3%（更新対象者3,859名に対し1,286名が更新）の報告²⁾にも見られる。

時間と費用をかけて資格を取得したにもかかわらず、なぜ更新率が50%を割ってしまうほど資格を更新しない未更新者が多いのだろうか。そこで、レクリエーション領域における有識者は、未更新者が多いこの現象をどのように考えているのか調査し考察した。

II. 研究の目的と方法

1. 研究の目的

本研究の目的は、スポーツ・レクリエーション指導者資格の未更新者が多いことに着目し、なぜこのような現象が引き起こされているのか、有識者はこのことをどのように捉え考えているのかを明らかにし考察することである。

2. 研究の対象とした資格制度

(財)日本レク協会の指導者資格制度

3. 対象団体の指導者養成の経緯

(財)日本レク協会は、1951(昭和26)年『レクリエーションが健全に進展するためには、たくさんの指導者が、全国至るところで盛んに良い指導をするものでなければならない。良い指導者はレクリエーションを良く理解し、指導する能力を1つ以上持っているなければならない。』³⁾という主旨をもって「レクリエーション指導者検定規程」を発足させた。

この指導者検定規程の発足時には、「指導者」資格のみ1階梯制であったが、1962(昭和37)年に「指導者」と「上級指導者」の2階梯制になり、さらに1973(昭和48)年には、「2級指導者」「1級指導者」「上級指導者」の3階梯制に規程は改訂された。あわせて、資格の登録は2年ごとに更新することが全指導者に対して義務づけられた。

大学、短期大学や専修学校等の高等教育機関に、(財)日本レク協会が認める教員組織をおき、協会が指定したカリキュラムの単位を取得することによって、資格または受験資格が得られる課程認定校制度は、1983(昭和58)年に発足し、この頃から登録指導者数は急激な増加を見せるようになった。

その後、1993(平成5)年には、「(財)日本レク協会人材養成マスタープラン」が発表され、新たに「公認指導者資格認定規程」が制定された。このとき資格制度が大幅に見直され、領域ごとの専門資格「レクリエーション・インストラクター」「レクリエーション・コーディネーター」「福祉レクリエーション・ワーカー」「グループレクリエーション・ワーカー」「余暇生活相談員」「余暇生活開発士」の6資格が誕生した。また、この年より4年

ごとに（但し課程認定校生は初年度に限り2年）資格の更新をすることになったが、2008（平成20）年には全ての指導者が2年ごとに更新するように再び規程は改められた。

「グループレクリエーション・ワーカー」は2008（平成20）年に廃止され、「余暇生活相談員」と「余暇生活開発士」は統合され新たに「余暇開発士」資格が誕生し、2009（平成21）年度現在、全4資格の養成が続けられている。なお、2009（平成21）年3月末現在の登録指導者数は117,464名であった。

4. 研究の方法

1) 未更新者が多いことの実態把握

資格の未更新者が多いことを、(財)日本レク協会、(社)日本キャンプ協会、(財)健康・体力づくり事業財団が認定する指導者資格について把握した。実態把握には、各団体の事業報告書に掲載された数値データを用いた。

2) 有識者に対するインタビュー調査

(財)日本レク協会のレクリエーション指導者資格について、指導者養成に関わりのある、または関わりのあった有識者10名に対してインタビュー調査を実施した。

インタビュー実施時期は、平成21年9月9日（水）～10月5日（月）であった。

表1：インタビュー実施者（10名）の年齢と現在の役職一覧

	年齢	現在の役職		年齢	現在の役職
Aさん	49才	大学教授 課程認定校*	Fさん	66才	短大教授 元職員* 課程認定校*
Bさん	55才	大学教授 課程認定校*	Gさん	67才	大学教授 元職員* 課程認定校*
Cさん	60才	大学教授 元職員* 課程認定校*	Hさん	69才	公益法人常務理事 元職員*
Dさん	61才	協会理事 元職員*	Iさん	80才	大学名誉教授 協会顧問
Eさん	62才	大学教授 元職員*	Jさん	80才	大学名誉教授 元上級レク指導者

※元職員：(財)日本レク協会元職員 *課程認定校：課程認定校の講座担当教員

Ⅲ. 結果

1. 未更新者が多いことの実態把握

(財)日本レク協会、(社)日本キャンプ協会、(財)健康・体力づくり事業財団の事業報告書に記載された数値データを用いて、更新対象者数と更新者数の年次推移をグラフ化した。その結果から、未更新者が多い状況が継続して起きている実態を把握することができた。図1及び図2は、その一例を例示したものである。

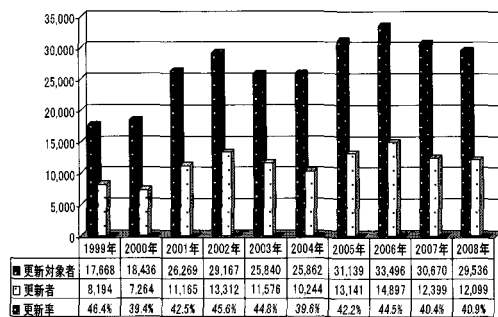


図1 レク・インストラクター資格の更新率推移

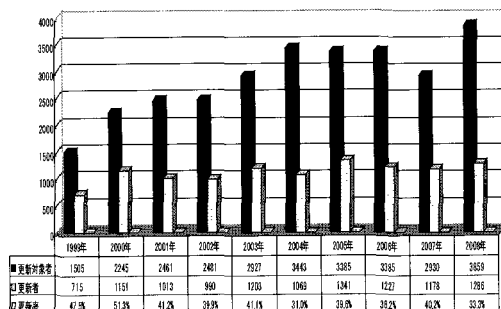


図2 健康運動実践指導者資格の更新率推移

2. 有識者に対するインタビュー調査結果

インタビュー前に、(財)日本レク協会の指導者資格の登録者総数、資格別の登録者数、新規資格取得者数、資格更新率の推移をグラフにまとめた資料を、表1に示した有識者に事前に送付し、データに目を通すことをお願いした。

データに対する質問項目をあらかじめ用意したうえで、半構造的面接法によりインタビューを実施した。主な質問項目は、「資格を更新しない人が多い現象をどう捉えるか」「現在の指導者資格制度が抱える課題や問題点についての考え」などであった。

1) 資格を更新しない人が多い現象をどう捉えるか

Aさん	多くの学生が就職活動を有利にすすめるために資格を一つの手段として考えていることも原因の一つだろう。資格の社会的価値が高まっていけば更新するだろうが、更新しない理由として経済的な理由も大きいと思う。学生時代に様々な資格を取得し、資格の更新も重なれば更新料の負担も大きくなる。そうすると資格に順位をつけて現実的に必要度の低い資格ほど更新はしなくなる。
Bさん	課程認定校教員の立場から言うと、在校時代のモチベーションであるとか、資格の意味、レクリエーションの意義への理解が不足しているからだと思う。外的な要因として、資格を取って社会に出たときに、活動の場がない、ちょっとしたレクリエーションへの関わり方も、今の社会の中では見つけにくいということも影響していると思う。
Cさん	見返りがないと資格は更新しないだろう。見返りは、自分自身の充実感や、精神的な喜びでも、お金でも、ステータスでも良い。何らかの見返りがないと資格は更新しないと思う。昔は資格を取ると周りからすごいね、と言われて、自分自身も指導していて楽しかったから、そういう意味での見返りがあった。今の認定校の学生が求めている見返りは就職である。
Dさん	なぜ資格を更新しなければいけないのかということが明確ではない。更新料を払う必要性を感じていない。何かの技術を評価されるわけでもないのだから、更新ということについて、指導者に明確な意味が届いていないのだろう。自動車免許は更新する意味が理解されているからみんな更新する。結論は、更新の意味が届いていない。養成された指導者が組織に位置付いていないことが原因だろう。
Eさん	名称独占資格である介護福祉士資格取得のためのカリキュラムに必修として、レクリエーション活動援助法などが位置づいていた時期は、レク指導者資格が名称独占資格に準ずる効力を持っていて、指導力を生かす余地があったといえる。しかし、介護保険法の改正が行われるたびに、最も大切であるはずのレク活動の質的面の保険点数が削られてきたため、当然の介護福祉士素養という意識が減り、自己研鑽意識の低下、更新率の低下の一因となっているのではないだろうか。
Fさん	更新率というのは資格が現実的にどの程度意味のあるものかを示す指標であろう。ある時期から指導者資格が市場価値を持ちだした。市場を養成市場とみれば、課程認定校制度が始まった頃から市場価値を見いだしたということだろう。資格が学生集めの手段として、ある一部分だけ利用されるようになってしまったことも指導者養成の市場化をもたらした原因の一つだろう。指導者養成が、経験主義からカリキュラム主義に変わってきた。以前は何と言っても、経験主義でしたから、資格は実際に活動してきた経験者に、講習会などでさらに補強して与えるものという考え方であった。
Gさん	更新率が低いというが、40%も更新してくれる人がいるなら良いじゃないかっていう評価、見方もある。元々活動していない人が資格を登録して更新までしてくれていたことを前提として考えるならばではあるが。今後は、一流といわれるような大学でもレク資格を取得する動きが出てくるような専門的で学術性みたいなものを考えられる資格体系を作っていく必要があるだろう。

Hさん	更新率が低いから悪いという問題ではなくて、むしろ更新してくれた人がこれだけたくさんいたと捉える方が正しいのではないかと考える有識者が多いことがわかった。資格を就職の手段として取得したにせよ、資格が活用でき、役に立つ資格であれば更新するだろうと有識者は考えていた。
Iさん	更新率が低いということは煎じ詰めると、資格取得後の受け皿が少ないことと、資格に対して価値を感じていない、働きがいを感じていないって事だろう。もう一つは、社会的な価値、地位の向上が必要だろう。実際に活動していなくても、資格に社会的な地位があると認識していれば更新するだろう。
Jさん	協会は、資格を取ってもらいたいと力を入れて頑張ってきたが、資格を取った後のフォローが弱かったのではないかと考える有識者が多いことがわかった。更新率が高かったのは時代の趨勢であって、今の状態にフィットしていないのかもしれない。更新率が高かったのは時代の趨勢であって、今の状態にフィットしていないのかもしれない。

2) 現在の指導者資格制度が抱える課題や問題点についての主な回答

- Iさん：資格を細分化したのは時代の趨勢であって、今の状態にフィットしていないのかもしれない。細分化するならば、受け皿をきちんと作ってからやれば良かったと思う。
- Gさん：今の制度だと高い知的好奇心を持った人を取り込みにくい。このままでは、資格が広がって行って大衆化していくに従って、資格の価値は薄くなってってしまう。
- Eさん：2級指導者、1級指導者、上級指導者の階梯制度の時は、到達点として、実践家でなくても質的意味で頂点に行くヒントがあったと思う。人は今持っている資格が役に立たない、そう思うからより上級の資格を目指そうとするものだ。
- Dさん：レクリエーション運動が指導者の活動と一致していた頃は更新率も高かったのではないかと考える有識者が多いことがわかった。養成は養成、活用は活用ってなった瞬間からそれは上手くいかなかったのかもしれない。
- Bさん：養成が実績重視からカリキュラム主義にかわって指導者の質的变化がおこった。レクリエーションの本質を理解していないままに、単位制の中で資格が取れるようになったからだろう。現場を踏まない、現場を踏まない人が資格を取るから更新率も下がる。現場を踏んで価値を感じた人が資格を取れば更新率は高まると思う。

IV. まとめ

インタビュー調査の結果、未更新者が多い現象は、資格取得後の指導者の受け皿としての、活用場所の少なさに起因するのではないかと考える有識者が多いことがわかった。資格を就職の手段として取得したにせよ、資格が活用でき、役に立つ資格であれば更新するだろうと有識者は考えていた。

養成制度が経験主義からカリキュラム主義へ変化していく過程で、資格の細分化、資格の大衆化が進んでいくことに対しては、資格の質的価値の低下を招かないように警鐘を鳴らす有識者もいた。

今後も引き続き、有識者の方々の考えを参考にして、資格の未更新者が多い現象がなぜ引き起こされたかについての研究を続けていきたい。

参考資料

1. 事業報告書 財団法人日本レクリエーション協会 昭和30年～平成20年
2. 事業報告書 財団法人健康・体力づくり事業財団 昭和63年～平成20年
3. 今後の人材養成指針の策定について 財団法人日本レクリエーション協会 平成19年5月